

平成 13 年度事業報告

会長・理事 内藤喜之

前期会長・理事	青木利晴	理事	岡本龍明	理事	伊藤弘昌
副会長・理事	石黒辰雄	理事	石原直	理事	白井良明
副会長・理事	池田克夫	理事	並木淳治	理事	中川正雄
副会長・理事	齊藤忠夫	理事	村上仁己	理事	鈴木滋彦
副会長・理事	小山正樹	理事	雨宮真人	理事	小林功郎
理事	後藤裕一	理事	辻井重男	理事	小川英光
理事	青山友紀	理事	寺田浩詔	監事	石川宏
理事	村岡洋一	理事	高木幹雄	監事	木村達也
理事	安田浩	理事	川北建次		
理事	宮原秀夫	理事	伊藤精彦		

事業概況

平成 13 年度は、これまで推進してきた各種事業を積極的に推進するとともに、大会の活性化、英文論文誌のグローバル化、会員増強等、更なるソサイエティの活性化へ向けた新施策を支援する「ソサイエティ活性化基金」を設立して、運用を実施した。

学会間の連携に関して、電気学会とは相互協力の覚書調印に続いて継続的に会合を持った。情報処理学会とは情報・システムソサイエティとの間で共催の大会を開催すべく具体的な検討に入った。また、国内関連学会との友好・協調関係の輪を拡大しながら、学会の将来像を探る前段階として、電気・情報関連 5 学会の会長による懇談会を開催した。

具体的には下記に示すような取組みを進めた。

- (1) 大会関連では 13 年 3 月末総合大会から Web による講演申込み登録を開始し、14 年 3 月末の総合大会から投稿も含めて全電子化を進めた。CD-ROM に全論文と検索機能も搭載し、会員へのサービス向上を図った。併せて、紙資源の節約に貢献した。CD-ROM 化に伴い、参加費、聴講費の見直しを実施した。
電気・情報関連学会連合大会については 5 学会で検討した結果、廃止することとし、5 学会連名で学術会議に通知した。
- (2) 会誌は予定どおりに実施した。大学の新しい教科書シリーズ「電子情報通信レクチャーシリーズ」は順調に進み、14 年 3 月に第 1 号が発刊された。
- (3) 先端オープン講座は予定を越える聴講者があり、順調に推進した。
- (4) 学生会増強基金を有効活用し、会員増強の一環として機能する試みを開始した。学生会事業は学生会顧問の協力の下に支部ごとに活動を実施した。
- (5) ソサイエティの自立化に向けて「ソサイエティ独立採算化検討 WG」では 12 年度実績を基にシミュレーションを実施し、その一部を 14 年度予算に盛り込むとともに、従来の本部予算からソサイエティ会費を切り出す方法から最初から会費を分離する方法について検討し、妥当と思われる方法を提起した。
- (6) 企画室（学会英文名称検討 WG：主査篠田庄司）において、国際的に整合・通用する学会組織及び役職の英文名称を検討し、改正した。
- (7) 学会の電子化に関しては個人認証機能の付加を進め

た。また、論文電子投稿システムの構築に向けて査読システムの改良を継続推進した。

- (8) 技術者教育認定制度については、「JABEE 対応委員会：秋山稔委員長」において JABEE（日本技術者教育認定機構）及び関連学会と連携をとりながら専門分野等の調整をし、今年度は電気学会及び情報処理学会と協力して 2 校で審査の試行実験を行い、順調に進めることができた。

13 年 12 月と 14 年 3 月（それぞれ 2 日間）に本会主催の審査員養成のための JABEE 自主研修会を開催し、合わせて 240 名の参加者を得た。

また、14 年 3 月末の総合大会では特別企画として、受審する側の高等教育機関に向けてのシンポジウム開催を企画した。

- (9) 学会ホームページは継続的に改善を実施した。
 - ・ ホームページ内容の充実・刷新
 - ・ 会員のメールアドレス転送サービス向上（2 地点転送、ウイルスチェック機能強化）
 - ・ イベントカレンダーの新設（国際会議、研究会、支部活動、等）
 - ・ 教官募集案内のホームページへの掲載
 - ・ メールで研究会の原稿執筆依頼、等
- (10) 他学会との連携
電気学会とは、将来的な学会の統合を視野に入れた包括的な協力関係を推進する覚書に基づいて 13 年度から協力推進連絡会を発足させ協議を進めている。
情報・システムソサイエティは情報処理学会と共催で「情報科学技術フォーラム（FIT）」を開催することで合意し、14 年 9 月 25 - 28 日の 4 日間東工大で開催することで準備を進めている。
また、電気・情報関連 5 学会の会長が集まり、今後の連携に向けてフリーに意見交換する場が設けられた。
- (11) グローバル化の一環として海外会員増強も視野に入れて、国際委員会において海外支部設置の可能性を検討し、足掛かりとして 14 年度からアジアの 4 地域に地域代表者を選定して活動を開始することを具体化した。
海外の大学等の 99 の図書館に 14 年 1 月から機関誌の無料送付を開始した。
- (12) 昨年設立した「子供の科学教室基金」による子供の科学教室の活動をより安定した形態にする目的で、14 年度から会員に対して募金活動をする事を決定し、

会費請求時に会員に依頼することとした。

- (13) 子供の科学離れを防ぐための本学会単独開催の「小・中・高校生の科学教室」を本年度も実施し、約650名の参加者を得た。また、平成12年度に引き続いて13年度も文部科学省からの委嘱事業として「科学系博物館活用電子情報通信学会&中央大学ネットワーク推進協議会」(2年間)に協力をした。

以下に各事業の実施状況を報告する。

(氏名につきましては、敬称を略させていただきます)

I. 本部事業

1. 大会に関する事項

1.1 総合大会

期日 平成13年3月26日(月)～29日(木)

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス(草津市野路東1-1-1)

参加者 5,854名

講演件数

大会委員会企画	3課題	14講演
ソサイエティ特別企画	4課題	17講演
パネル討論	9課題	53講演
チュートリアル講演	9課題	44講演
一般講演		2,910講演
シンポジウム講演		244講演
	合計	3,282講演

懇親会 大会会場 リンクスクエア棟 カフェテリア 参加者282名

1.2 電気・情報関連学会連合大会(事務担当:本会)

期日 平成13年9月21日(金)

会場 電気通信大学 B棟 201教室(調布市調布ケ丘1-5-1)

統一テーマ:デジタル情報化社会はライフスタイルをどう変えるか?

特別講演講師:堀内長之(電力テック)

招待講演講師:片岡龍夫(NTTドコモ), 松下 温(慶大), 山地克郎(富士通)。

日本学術会議シンポジウム

テーマ:バーチャル・ユニバーシティと教育改革

講師:坂元 昂(メディア教育開発センター), 田中毎実(京大), 村岡洋一(早大)。

2. 国際会議に関する事項

次のとおり開催した。

会議名	開催年月日	参加者数	論文数	場所
2001 Progress in Electromagnetics Research Symposium (PIERS 2001)	2001.7.18～22	558	582	大阪市:コスモスクエア国際交流センター
2001年アジア・太平洋電波科学会議(AP-RASC'01)	2001.8.1～4	660	599	東京:中央大学理工学部

3. 出版に関する事項

3.1 会誌の発行状況

全会員に共通の場で重要なメディアである会誌は、平成13年4月から14年9月まで12冊、合計456,400部(月平均38,033部)を発行配布した。

記事の内容・件数及びページ数は次のとおりである。

種類	件数	ページ	種類	件数	ページ
慶賀	0	0	私の意見	2	7
追悼	2	4	学生会報告	2	10
寄書	3	10	支部だより	2	0
回想	3	12	国際会議	37	8
講演	1	5	図書紹介	16	8
公開シンポジウム	2	16	予定目次	6	2
5月特集(21世紀の医療・福祉を支える科学技術)	21	87	学会ニュース	1	1
8月小特集(一億超トランジスタ時代のシステムLSI)	7	48	国内文庫目次		
10月特別小特集(エレクトロニクステクノロジーで環境を観る)	12	28	同書寄贈一覧	8	8
11月特集(モバイル社会を支える先端技術—小型化と使いやすさを極める—)	12	84	ニュース	39	39
1月特別小特集(ITとスポーツ)	6	23	本会だより		
3月小特集(いにしへの世界を探る科学技術)	13	52	編集室		
解説A	19	70	役員等口絵		
解説B	20	137	総会・運営		
講座	12	69	フェロー口絵		
教養のページ	11	39	会誌総目次		
学生のページ	7	21	学会編集室		
ソサイエティのページ	5	9			
学生報	1	3			
			計		954
			巻頭言		12
			目次		12
			会告		686
			大会プログラム		36
			合計		1,724

* その他:広告(カラー, 前付, 後付等) 469ページ

3.2 単行本

平成13年度は新刊4点4,000部, 重版15点8,000部を発行した。

新刊書は次のとおりである。

新刊書名	発行年月日	ページ数	部数
IPv6—インターネット新世代—	H13.7.15	188	1,000
IT時代を支える光ファイバ技術	H13.7.20	232	1,000
—名著復刻シリーズ—符号理論	H13.10.1	598	1,000
ナノエレクトロニクスと計算科学	H13.11.1	160	1,000

3.3 教科書「電子情報通信学会大学シリーズ」の発行(全62巻)(コロナ社委託出版)

昭和55年8月以降既刊書目51点。平成13年度は新刊1点, 重版15点を発行した。

3.4 教科書「電子情報通信レクチャーシリーズ」

大学院及び学部の学生を対象とし、併せて一般勉学者の参考に供するための新シリーズの教科書刊行に向けて、教科書委員会では63書目の依頼を完了した。第1回配本として「電磁気学」を3月に発行した。今後脱稿次第順次刊行の予定である。

4. 規格調査会に関する事項

委員会会議を4回, 専門委員会及び小委員会を85回開催した。取り扱ったIEC文書は695件で、そのうち130件に対して日本の意見を回答した。

専門委員会名	専門委員長名	委員数		開催数	
		専門(委)	小(委)	専門(委)	小(委)
1 規格調査委員会	高木 幹雄	18	0	4	0
2 電子部品のデータベース	高木 幹雄	0	25	0	4
3 通信伝送線路	東川 正	14	2	4	0
4 周波数制御・選択アバイス	高木 幹雄	25	30	5	8
5 光ファイバ	羽島 光俊	18	95	4	8
6 デザインオートメーション	高木 幹雄	21	44	5	5